

国語

## (1) 国語

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養ったり、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合うなど、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、情報の扱い方に関する学習の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 調べたことを話したり、聞いたり、また行事の案内やお礼の文章を書くなどの体験活動を通して、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や中学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 内容の配列及び造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童等への配慮、編集上の工夫等
3 その他	・語彙指導、読書指導の充実に向けた工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いや考えの共有の場面を多く設定し、対話的な学びが充実するよう工夫されている。〔例〕2年上(P23)</li> <li>・二次元コードで学習資料を豊富に掲載し、主体的な学習に活用できるよう工夫されている。</li> </ul> <p>●着眼点(2)について</p> <p>重点指導事項に即した具体的な言語活動が設定されている。また、単元の学習のポイントにキャラクターが用いられ、明確に示されている。</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報のとびら」では四コマ漫画を使って身近な題材を教材化している。また、キャラクターを用いてポイントが明確に示されている。まとめでは練習問題が設けられている。</li> <li>・「情報」と「読む」「書く」の単元を連携させ指導ができるよう教材が配列されている。〔例〕6年(P60～61)</li> </ul>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>2年生以上の巻頭「言葉の力を集めよう」で、1年間の学習内容の見通しをもつとともに、各学年に応じた「国語の学習の進め方」や「国語のノートの作り方」、「デジタルノートの作り方」が示されている。</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>地域の人にインタビューする等、家庭や地域社会に関わる言語活動の中で、指導事項が明確に示されている。</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>児童の日常生活の中から話題を選び、学んだことを生かせるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の「生かそう」において、身につけた力を、他教科や生活に生かす方法が具体的に示されている。〔例〕3年下(P106) 社会科との関連</li> <li>・6年巻末で学習内容を振り返り、中学校につながるよう工夫されている。</li> </ul>
17 教出	<p>●着眼点(1)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生活場面に関わる話題や興味を引く題材を言語活動に設定し、活発に対話的な学習ができるよう工夫されている。〔例〕2年下(P60～62)</li> <li>・単元の冒頭で「見通しをもとう」を示し、児童が学習過程を見通して主体的に学習に取り組むよう工夫されている。</li> </ul> <p>●着眼点(2)について</p> <p>学習過程を示した「学習の進め方」において、重点指導事項をハイライトで表示することで、児童が単元で身につける言語能力を意識して取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用能力に関する学習を独立させず、基本領域の単元の言語活動によって身に付けるよう工夫されている。</li> <li>・巻末の「情報のまとめ」と関連付け、反復して学習できるよう工夫されている。〔例〕6年下(P58～59、P148)</li> </ul>	<p>●着眼点(4)について</p> <p>巻頭の「〇年生で学ぶこと」で、各学年の学習内容の見通しをもつとともに、学習内容が実生活で活用できる場面がわかるよう表記されている。</p> <p>●着眼点(5)について</p> <p>地域の人にインタビューする等、家庭や地域社会に関わる言語活動が設定され、その後、お礼の手紙を書く単元につながるなど、児童の思考の流れに沿った単元の配列がされている。</p> <p>●着眼点(6)について</p> <p>4年上「作ろう！ショートショート」等、児童の興味を引く話題での言語活動が工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科の学習場面を例に挙げて、学習内容が他教科で活用できるよう工夫されている。〔例〕5年上(P62～65) 総合的な学習との関連</li> <li>・中学校で学習する古典作品を一部扱い、学習の円滑な接続が図られている。</li> </ul>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について 各単元の初めの「問いをもと」で児童に課題意識を持たせ、目標へとつなげることで、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。〔例〕2年上 (P30、40)</p> <p>●着眼点(2)について 学習過程を明確にし、その中で重点指導事項に沿った観点を詳しく示すことで、言語能力を確実に育成することができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について ・年間2つの情報教材において、重要なポイントや具体例が示されている。さらに直後の「書くこと」の単元で学習内容を生かすことで、内容の定着を図ることができるよう工夫されている。〔例〕6年 (P74～78) ・巻末折込に「図を使って考えよう」を設け、思考ツールを使った情報の整理方法や、考えを伝える時の言葉の使い方等を確認することができる。</p>	<p>●着眼点(4)について 巻頭の「国語の学びを見わたそう」では、前学年との学習内容のつながりや、学習の進め方が説明されている。また、各学年の始めに「国語の学習で、できるようになりたいこと」、最後に「〇年生を振り返って」を記述させる欄が設けられている。</p> <p>●着眼点(5)について 地域の人にインタビューする等、家庭や地域社会に関わる言語活動で、学習過程が詳しく説明されている。</p> <p>●着眼点(6)について 説明的文章の資料に、近年のスポーツの場面の写真を用いる等、児童の興味を引く資料が掲載されている。</p> <p>●着眼点(7)について ・他教科に関連のある話題や題材が選定され、それを活用できるよう工夫されている。〔例〕4年上 (P122～125) 社会科との関連 ・6年巻末の「中学校へつなげよう」で学習内容を確認することができる。</p>

## 2 使用上の便宜

項目  発行者の 番号・略称	総 ページ	(1) 内容別配当の分量							(2) 教材・資料等の分量					
		思考力、判断力、表現力等			知識 及び 技能	資料	その他	新出 漢字 の数	図表 ・ グラフ の数	紹介 されて いる 本の 冊数	古典 の ページ 数	二次 元 コード の数	三重 県に 関わる 記述等	
		話す こと ・ 聞く こと	書く こと	読む こと										
2 東書	1上	144	16	21	58	32	15	2	17	21	19	0	31	0
	1下	172	14	40	68	18	28	4	63	8	79	0	34	0
	2上	160	16	20	67	25	27	5	85	12	60	0	57	0
	2下	168	13	38	58	21	34	4	75	25	34	6	47	0
	3上	168	13	29	69	25	27	5	115	13	69	0	53	0
	3下	170	11	27	60	28	40	4	85	18	36	6	55	0
	4上	168	13	27	67	27	29	5	119	13	79	0	58	0
	4下	160	11	27	64	22	32	4	83	13	40	6	54	0
	5	296	22	46	137	49	37	5	193	23	100	10	97	1
	6	296	24	57	133	40	37	5	191	18	93	10	94	0
17 教出	1上	135	14	22	40	46	12	1	23	18	40	0	5	0
	1下	175	9	20	76	17	37	3	57	34	43	0	15	0
	2上	163	14	17	64	25	40	3	104	9	51	2	13	0
	2下	167	6	23	92	17	26	3	56	22	52	2	14	0
	3上	163	11	27	76	18	28	3	115	10	54	8	15	0
	3下	159	19	18	68	13	38	3	85	20	45	0	15	0
	4上	175	11	33	64	20	44	3	140	10	57	6	19	0
	4下	169	16	24	78	18	30	3	62	16	50	8	19	2
	5上	159	16	10	70	26	34	3	95	3	55	6	21	0
	5下	183	5	15	80	28	52	3	98	18	59	8	14	0
	6上	159	12	17	55	26	46	3	103	12	44	8	19	0
	6下	167	4	11	69	30	50	3	88	9	45	8	18	0

38 光村	1上	132	27	22	57	15	10	1	13	22	21	0	19	0
	1下	140	8	32	56	24	15	5	67	8	28	0	11	0
	2上	164	13	22	59	32	34	4	103	16	57	0	10	0
	2下	168	9	30	75	10	40	4	57	20	41	0	10	0
	3上	164	10	23	56	35	36	4	115	21	57	3	11	0
	3下	168	12	32	73	9	38	4	85	19	48	2	13	0
	4上	160	10	23	50	35	38	4	123	8	57	6	13	1
	4下	176	12	29	86	6	39	4	79	24	46	4	13	0
	5	294	22	54	106	51	54	7	193	20	95	21	25	0
	6	312	21	51	125	41	67	7	191	15	106	34	25	0

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、用紙は十分な強度を保ちつつ軽量化したものが使用されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、色だけで区別・判別する表現を避け、必要に応じて色以外の情報が加えられている。</li> <li>1年上巻では、促音「っ」や拗音「ゃ・ゅ・ょ」のような小書きの文字をさらに一回り小さくして、読み誤りがないよう工夫されている。</li> <li>新出漢字の表記について、送り仮名よりも読み仮名が強調されるよう、文字の大きさや書体が工夫されている。</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、紙は軽量ながら裏写りのない再生紙が使用されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、色調のバランスだけでなく形の上でも区別できるよう配慮されている。</li> <li>違和感のある交ぜ書きをできるだけ避け、上位学年の漢字であっても負担とならないよう考慮しながら、適宜読み仮名を使用して熟語で示すよう工夫されている。</li> <li>6学年全てで上下巻2冊にして1冊あたりの重量を軽くし、半年ごとに新しい教科書に出会えるよう工夫されている。</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、環境に負担の少ない用紙が使用されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、色による識別に頼ることなく、形で識別できるよう作成されている。</li> <li>低学年では、手書き文字に近い太教科書体を使い、児童が文字の形をはっきり認識できるよう工夫されている。</li> <li>上段と下段の性格付けを明確にした2段組みの構造にすることで、どこを、どう読み、何が大切なのか一目でわかるよう工夫されている。</li> </ul>

3 その他

発行者の 番号・略称	今日的課題への配慮
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末付録「言葉の広場」で学年段階に応じた語句を掲載し、語彙を増やす工夫がされている。また「言葉相談室」では、文法と語彙に特化した学習が工夫されている。</li> <li>年間3か所に読書単元を設定し、学年段階に合った多様な図書を紹介するとともに、著名人による読書体験文を掲載して、読書への興味・関心を高めるよう工夫されている。[例]3年上(P100~P105)</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末の「言葉の木」でイラストを用いて語句をまとめ、連想しながら言葉を増やしていくことができるよう工夫されている。</li> <li>夏休み前の図書紹介コーナー「ひろがる読書の世界」では、各ジャンルの人気作品を取り上げて紹介し、「読書クイズ」等短時間でできる読書活動が掲載されている。また、読んだ本を記録する活動されるよう、「読書履歴カード」にアクセスすることができる二次元コードが配置されている。[例]3年上(P96、P97)</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末の「言葉のたから箱」で各種の語句を集め、より適切な語句の選択ができるよう工夫されている。また、二次元コードから既習の語句を確認することができ、語句を活用した活動が提案されている。</li> <li>各学年に適した本を幅広いジャンルから紹介するとともに、様々な本の読み方が示されたり、本で知ったことを生かした「クイズ大会」等で、読書を生かした活動が提案されたりしている。</li> </ul>